

## 挨拶

第31回日本語教育連絡会議は、クロアチアのプーラ市に位置しているユライ・ドブリラ大学プーラにて2018年9月7日・8日に開催されました。ちょうど30年前、遠い1988年に1回目の連絡会議がクロアチア（旧ユーゴスラビアの時）のドブロブニクで開催されて、改めてアドリア海の海岸で開かれたことを非常に嬉しく思います。日本をはじめ、スロベニア、セルビア、ハンガリー、ドイツ、ベルギー、フランス、リトアニア、クロアチアから46名のご参加があって、2015年に日本語学位プログラムを設立したばかりの若い大学としては非常に光栄に思っております。

連絡会議の前日、9月6日に本大学にて国際シンポジウム「新世代の日本語学習」が行われて、東京工業大学の名誉教授である仁科喜久子先生、東北大学の才田いずみ先生および佐藤勢紀子先生、3名の先生方の基調講演を伺えました。17件の研究発表の平行セッションの後、夕方に連絡会議の参加者およびオンライン参加者も対象としたコーパスワークショップ「日本語教育に役立つコーパスの使い方」を筑波大学名誉教授である砂川先生が黒沢先生、根元先生と共に開催されました。

今回の連絡会議には、30件の発表があって、日本語・日本語教育に関連した調査・実践報告、学習者の誤用から見た研究、e-learning教材の発展、発音習得などの興味深い話題の発表が行われました。そして今までの連絡会議のスタイルで、すべての発表を全員で聞き議論するように二日間連続で過ごしました。

会議を閉会する前、若井先生のお子さんが伝統的なハンガリーの音楽演奏をしてくれて、多文化のつながりと交流の大切さおよび美しさをよく感じられました。その後、ロヴィン市への日帰りツアーに行って、マルヴァジアというイストラ地方の美味しいワインと新鮮な魚料理を召し上がってから、ヴェネツィアのような街並みを散策して、旧市街の丘の頂上にある聖エウフェミヤ教会まで登りました。

二日間の連絡会議で様々な貴重なお話を伺うことができ、皆さまと一緒に充実した時間を楽しく過ごさせていただいて、非常にありがたく思っております。

今後の連絡会議の益々のご発展をお祈り申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。

ユライ・ドブリラ大学プーラ  
人文学部  
アジア研究科  
日本語・日本文化学科  
イレーナ・スルダノヴィッチ